

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立入野小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間評価の実施により、全職員でそれぞれの取組の進捗状況や達成度の確認ができ、共通理解のもと児童の実態や社会のニーズを踏まえた教育活動の改善を図ることができた。</li> <li>コロナ禍により地域人材の活用、講師を招いた体験活動などあまりできなかった。地域での出番の確保や、地域への発信については、家庭、地域と連携しながら、より良い在り方を探ってきたい。</li> <li>コロナ禍により先進校視察や講師招聘での研修会等ができなかったが、研究発表会やマイプランの活用、校内研究での視点の整理を通して、共通理解を回り、授業改善を進めることができた。</li> <li>コロナ禍により体験活動や相互参観など、従来通りの交流をもとにした小中連携はあまりできなかった。4校で目標を共有しながら、連携の形態や内容について工夫し、推進していきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	<b>自ら学び、まわりと協働しながら、これからの社会を創り出す入野っ子の育成</b>

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「子どもに関わる事故『0』」、「感染症対策と新しい生活様式の徹底」など、安心・安全な学校づくり</li> <li>小中連携・小中連携と、小規模学級の進めを活かした学力向上への取組（基礎・基本の徹底と学習習慣の定着）</li> <li>児童の豊かな心を育む、『本物に触れる体験』・『感動体験』など、体験活動の充実</li> <li>職員の学校運営への参画意識と協働意識を高める「チーム入野」の強化（共通理解と共通実践）</li> <li>保護者・地域・外部の人材とのさらなる連携強化と、学校の応援団としての体制づくり</li> </ol>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				5 最終評価				主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期にマイプランを立て、実践振り返りを定期的に行う。</li> <li>校内研修や学年部会で良い実践を紹介したり、情報共有したりする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイプランの実践と振り返りをくり返し、個々の職員の目標をより具体的に立て、取り組むことができるようになってきた。</li> <li>振り返りの時間の設定や取り組み方の工夫にはまだ課題がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上については、今後も取組が必要であるが、子どもたちは落ち着いて、学習に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上対策コーディネーター</li> <li>研究主任</li> </ul>	
	○学習を振り返る機会を設け、理解を広げたい深めたりするための指導の工夫(授業力向上)	○算数科を中心に振り返り活動を実施し、自分の考えを深めたり広めたりすることができたと回答した児童80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に2回算数アンケートを実施し、学年グループで分析し、日々の授業改善に活かす。</li> <li>学年グループで、日々の単元ごとに教材研究を行い適宜授業参観を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究(算数科)に限らず、さまざまな教科についての単元や教材研究を学年グループごとに行い、実践を重ねることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>素直で優しい子どもが多く、先生方の指導の成果だと思われる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上対策コーディネーター</li> <li>研究主任</li> </ul>
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	「心の広場(人権集会)」の感想において肯定的な回答をした児童80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>心の広場や学級活動等全教育活動を通して、人権の大切さについて伝えていく。</li> <li>道徳の授業実践を重ね、子どもの変化を見取るために道徳ノートの活用を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>心の広場を全校で取り組み、一人一人が大切にされる活動ができた。</li> <li>道徳のGWTの取組により、各学級の雰囲気も良くなっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の足跡が校内の掲示物にも残されており、全校で心の教育に取り組んでいることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育推進教師</li> <li>人権・同和教育担当</li> <li>特活部</li> </ul>	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童の実態把握に努め、早期発見につなげることができる教員90%以上。 ○いじめ防止について、組織的に対応できる教員90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>月末に生活アンケートを行い早期発見につなげる。</li> <li>学年での気づきは、細やかに管理職に報告相談する。</li> <li>毎月の生徒指導協議会で共有し、組織的に対応する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導協議会等で、各学級の様子共有し、いじめの早期発見に継続して取り組むことができています。</li> <li>各月の様子を紙面で残すことで、継続的に様子を見ることができています。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの未然防止から対応まで細やかに行われている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導主任</li> <li>生活部</li> </ul>
	◎志を高める教育	○故郷について学び、好きになった児童の割合が80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験を通して地域理解やその活動を通して、学んだことを友だちや地域に発信する。</li> <li>地元の人材バンクを活用し、郷土について学ぶ体験活動を整備していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的学習や社会科、生活科を通して、地域についての学習を深め、故郷を好きになっている。</li> <li>にあんちゃん学習など地域の人材バンクを活用し、郷土について学ぶ活動ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>にあんちゃん学習や弁護士によるいじめ防止授業など、地域について学んだり、地域の人材を活用した学習を進めようとしている。</li> </ul>		
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒95%以上 ○朝食を食べて登校する児童95%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりや、給食だより、校内掲示板を利用して、食の大切さを児童並びに保護者に伝えていく。</li> <li>年に2回の「弁当を作る日」や食育講演会などをPTAと連携して、親子で食について継続的に考える機会を設けて、家庭への啓発に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>お便りや給食の中で、献立に関する食材について興味をもち、食べることができている。</li> <li>2回のお弁当の日を通して、感想文の中に児童一人ひとりが毎日の食事に対して感謝の心をもつ記述が見られた。また、高学年になるにつれて色どりや栄養バランスを考えたお弁当を自ら作ることができていた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に2回のお弁当作りは親にとっても、子どもにとってもよい取組である。親子のふれあいにもよい。</li> <li>朝食については、朝食を食べるだけでなく、その内容も大事で、考えさせていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育担当</li> <li>保健主事</li> <li>保体部</li> <li>PTA担当</li> </ul>	
	○運動習慣の定着	○15分休みや昼休みに運動やスポーツを行う児童が75パーセント以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>放送・体育委員会が、放送で外で遊ぶように呼びかける。</li> <li>縦割り班活動で外での遊びを活発にし、外で遊ぶ意識を高める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期前半はたくさん児童が外で遊んでいたが、寒くなってからまた外で遊ぶ児童が少し減ってきた。体育倉庫を開けて遊び道具を増やすことで、子どもたちの興味を高めたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班活動などで、のびのびと体を動かしている様子を感じられる。今年も佐賀県のスポートチャレンジで入賞していることを学校だよりで知った。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>保体部</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間360時間以内の時間外勤務とするため、年間の業務を見通して月毎の退勤目標時間を設定する。</li> <li>定時退勤日、定時退勤推奨日の設定。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>退勤の際にお互いに声を掛け合い、予定時間までに出退勤できる日が増えた。アンケートでも職員の意識の高まりが感じられる。年間を通して上限を超えないようにすることが課題である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の負担軽減については、今後も継続して考えていく必要がある。メンタルヘルスについても、考えていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職</li> </ul>	
	○職員の連携強化による計画的な業務推進	○時間を意識し、連携して業務に取り組めたと感じる職員の割合80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物の締切、担当を早目に伝達し、見直しをもって話し合いをもち、業務を遂行できるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの部会がそれぞれ連携して業務にあたり、協働で行事等の準備に取り組む雰囲気がある。アンケートは、もう少しで80%というところであった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が協力して、児童の育成に力を注いでいることがうかがえる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員</li> </ul>

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				5 最終評価				主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上。 ○特別支援教育の研修会(演習を含む)2回以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内体制づくりを行い必要に応じて適宜、支援会議を実施する。</li> <li>特別支援に関する研修会の実施。</li> <li>毎月1回の校内研修を行い、児童の共通理解や特別支援教育への理解を深める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて適時支援会議を行い、SSWやSC等の他の教育機関につなげることができた。</li> <li>講師を招いた特別支援研修会や毎月の校内研修を行うことで、職員の特別支援に関する専門性が向上した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で情報共有し、連携して指導にあたっていることがうかがえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーター</li> </ul>	
○安心・安全な学校づくり	○危機管理の意識高揚と安全教育の充実	○危機予測に関する授業や安全教育の授業を実施した教員80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織で対応できるように、日頃から報告・連絡・相談を徹底する。</li> <li>安全教育では、体験的に学び、振り返りを充実させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階的に避難訓練を計画し、予告なしの避難訓練に取り組み、児童に避難の仕方が定着し、これまでの成果が出ていた。</li> <li>各学級での振り返りにも取り組むことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、計画的に避難訓練等が行われている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活部</li> <li>教頭</li> </ul>
○小中連携の推進	○(学校独自重点取組・任意)	○肥前中学校区での学習公開や体験活動を推進する。(授業公開1回、研究発表会1回、合同体験活動3回以上。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事や学習を相互参観したり、合同で行ったりする。</li> <li>中学校区で設定した共通目標に照らし合わせて、随時、評価・改善していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校校区での共通目標を意識して取り組んでいる。授業公開や研究発表会、合同で行事を行うことなどを通して、児童の様子が変わり、連携が取れている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区で学校統合の話し合いが今後進んでいくことを考えると、児童の指導についても、統合後のことも考えて方針をつき合わせていく必要がある。</li> </ul>		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が協働して、取り組む体制が整ってきたが、学力向上については、授業改善に力を入れるとともに、低学年からいかに学力を積み上げていくかを検討していく。</li> <li>行事等の見直しを継続しながら、職員一人一人が心身健康に業務にあたるように、働き方改革・メンタルヘルスに力を入れていく必要がある。</li> <li>中学校区での学校統合の話し合いも始まっているため、統合後のことも考えて、隣接する小学校間で更に情報交換を行い、共通した指導についても考えていく。</li> </ul>
----------------	--